

報 道 資 料

令和5年11月1日（水）

教 職 員 課

小中人事係

係長 坂 口 宏 仁

県立人事係

係長 門 司 雅 之

ダイヤル 0742-27-9844

(内線) 5241・5247

令和5年度奈良県公立学校優秀教職員表彰について

県内の市町村教育委員会教育長及び県立学校長から推薦のあった「奈良県公立学校優秀教職員表彰候補者」について、外部委員7名で構成する「奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会」での選考を経て、本年度下記のとおり7件の教職員を「奈良県公立学校優秀教職員」として決定し、教育長が表彰することとしました。

記

1 表彰の目的及び趣旨

この表彰は、教職員の意欲の高揚と、学校の活性化を図ることを目的として、職務に精励し、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員グループを対象として平成16年度から実施しています。また、県内の学校の活性化に資するため、表彰実践事例を県内の教育関係者に紹介するとともに広く公表しています。

令和2年度から、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員であって、さらに顕著な成果を上げることが見込まれる者を表彰する「若手教職員等奨励賞」を設けました。

本年度は、第20回目の表彰になります。

2 令和5年度表彰の概要

(1) 被表彰者数 …… 7件

(2) 被表彰者 ……

奈良市立六条小学校	大田 清美
生駒市立俵口小学校	吉田 正志
葛城市立新庄北小学校	竹綱 裕美
奈良県立王寺工業高等学校	井 尚志
奈良県立添上高等学校	谷奥 元弥
奈良県立国際中学校・奈良県立国際高等学校	ESD部

【若手教職員等奨励賞】

葛城市立新庄小学校 新子 直希

(3) 表彰式 …… なし

3 具体的な表彰実践事例（代表4例）

(1) ICTの効果的な活用を通じた学校運営の改善についての小学校教諭の事例

これまで、教務部の副担当として児童一人一台タブレット端末及び県域校務支援システムの活用促進に携わり、本年度からは教務主任として校務のプロジェクト化、勤務校ポータルサイトの開設、Google Workspace for Education環境下におけるICT活用推進等の主導、ロイロノートを効果的に活用し、学年や学級を中心とする学習活動を持続的に活性化させた。

また、Google Workspace for Education環境の活用促進によって、会議のペーパーレス化、会議時間の短縮、情報共有や案件修正の迅速化等を実現し、児童の居所に関する情報や各教室での学習内容等、日々の活動推進に必要な事柄をリアルタイムに近い形で他教室や職員室と共有できる仕組みを構築した。

(2) 産業界等との協働により、深い学びの実現及びキャリア教育推進につなげた高等学校教諭の事例

高等学校が産業界等と協働で生徒の深い学びにつなげる事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文科省）」において、同事業等の推進のために発足した「王工プロジェクト」の中心人物として同事業の事業特例校指定に大きく貢献した。DMG森精機との包括連携協定の一環として導入した最新の工作機械を実習等に積極的に活用することで、生徒が最新の工作機械の使用や対話型のプログラミング入力に抵抗なく取り組むことが出来るようになり、全国産業教育フェアへ出品という成果につながっている。この他にも県内企業との連携を推進し、生徒が企業に接する機会を増やすことで県内企業への理解が深まった。これらの取組もあり、県内企業への就職率は増加している。

(3) ESD推進のためのホールスクールアプローチに関する中学・高等学校教職員組織の事例

ESDとは「将来にわたり持続可能な社会を構築する担い手を育む教育」と訳される。ESD部では、スクールミッションである国際社会の平和と発展に貢献できる生徒を育成するため、ホールスクール（学校全体）でのESD推進を大きな目標として掲げ取り組んでいる。

学校設定科目「グローバル探究」や「世界の言語」等の新たなカリキュラムの作成や、留学生による地域住民向けの異文化理解講座・コミュニケーション力育成のための英語によるワークショップ等、校内外のネットワークづくりの取組を行ってきたが、これらの取組は県内でも先進的であり、探究学習等で一つのモデルとなるものである。

グローバルな視点での持続可能な社会の実現に向け、ESD部ではホールスクールアプローチを推進し、活動計画や教員研修計画を作成し、全教職員で取組を進めている。

(4) ジグソー法を通して、前のめりになって思考し、自ら学ぶ児童の育成を目指した小学校教諭の事例（若手教職員等奨励賞）

ジグソー法とは、テーマや課題について役割分担をして調べ学習を行い、自分が調べた内容を伝えていくもので、対話から学ぶ授業の手法であるが、本実践では、その利点を生かしつつ、個別最適な学びをも実現するジグソー法を見出し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した。

本実践による算数科の取組は、より主体的に、学んだ内容を生かして課題解決に挑ませようと考えた実践となっており、昨年度勤務校内で授業公開され、「子どもが没頭する学習課題の工夫」「子どもを学びから逃がさない工夫」「子どもが学びを確かめる工夫」の三つの工夫が効果的に生かされていると高評価を受け、校内の研究推進に大きな影響を与えた。